

NPO みなとしほがまについて

1 経緯等

1) 経緯

塩竈の歴史・文化を継承・発展させるために「塩竈学」構築の動き



地元学に取り組んできた参加者を中心に、港とまちの振興の動き



「NPO みなと しほがま」結成

2) 設立

みなとから塩竈を元気に。塩竈学の参加者や、塩竈の歴史に興味のある市民、市外の人々が集まり、海、港に育まれてきたまち塩竈の歴史、文化を発掘し、広く市民等への普及を図り、郷土への愛着心を育み、港、海を生かして活気あるまちづくりを進めるために設立しました。

○ 平成 15 年 12 月発足 平成 16 年 3 月 15 日 法人化

○ 初代理事長 三升 正直

現理事長職務代理者 副理事長 菅原周二

○ 会員総数 当初 15 名で発足、現会員 正会員 57 名、賛助会員 2 名 (H23 年 10 月 1 日現在)

3) 部会

各部会のリーダーがテーマごとに部会を立ち上げて、会員に呼びかけて自主的に活動を展開。

○ 古文書部会 (まち歩き班)・みなとかるた部会・歴史的建造物保存活用部会 (勝面楼、法蓮寺向拝、亀井邸、岩蔵の各プロジェクト)・津太夫左平顕彰部会 以上 4 部会

2 活動概要

○平成 16 年 7 月 設立記念シンポジウム「しほがまみなと昔ばなし」を開催

塩釜港の近代的港湾整備がはじまった昭和初期の工事状況、及び終戦直後のみなとに関わる人々の活動など、塩釜港に関わる変遷を、当時の貴重な写真をモチーフにパネラーと参加者が、「昔」そして「未来」の塩釜港について語り合いました。また、写真集「写真しほがまみなと昔話しー写真で見る塩釜港の歴史ー」を発行しました。



シンポジウム「しほがまみなと昔ばなし」を開催、マリンゲート塩釜にて参加者 約 100 名



写真集「しほがまみなと昔話しー写真で見る塩釜港の歴史ー」を制作

○平成 17 年 2 月 「奥塩地名集を歩く」と題した、会員を中心にした市内のまち歩き会を開催



「奥塩地名集」を読み解く古文書部会のメンバー



小雪の舞い散る中、まち歩きを行う会員

○平成 17 年 6 月 シンポジウム「塩竈の伝統建築物と町並みを考える」を開催

塩竈教育委員会生涯学習課で共同で実施した亀井邸の建物調査を中心に、塩竈の歴史的建造物の調査報告会をエスプホールで開催しました。参加者 約 150 名



報告会の様子



塩竈神社裏坂に建つ亀井邸

○平成17年10月 市民を対象にした「奥塩地名集を歩く」を開催

塩竈神社や西町、本町、南町周辺に埋もれている、史跡、名石、歴史的な建物等の紹介を行うボランティアガイドを実施しました。一般参加者47名



七曲坂下四方跡公園にて



三井家跡(赤坂)にて



05. 10. 4 河北新報朝刊掲載

○平成17年10月 「京都に残る塩竈を求めて」を開催

光源氏のモデルといわれる源融公が、千賀ノ浦(塩釜湾)の眺望をこよなく愛し、京都六条の辺りに塩竈を模した「河原の院」という大庭園を築いたといういわれについて、総勢15名で京都に残る塩竈を尋ねる旅を開催しました。特に「塩竈山上徳寺塩竈義弘氏」の講話や渉成園に残る「塩竈の井」などに感動しました。



河原の院の遺構と伝わる「渉成園」にて



「塩竈山上徳寺」の御住職との懇談



源氏物語ミュージアム内(宇治市)にある「六条の院」の模型

○平成17年7月から3月 パネル展「しほがまみなと昔話し 一鎌倉から明治・大正一」開催

「みなとしほがま」の魅力を再発見してこうと、国内で最も美しい景勝地として都人の憧れの地として描かれた「塩竈」の鎌倉から江戸時代までの古絵図や明治・大正にかけての町並み写真を題材にしたパネル展を開催及び図録を制作しました。(日本財団助成)

マリゲート塩釜 1F ポートギャラリーで開催



図録「しほがまみなと昔話し 一鎌倉から明治・大正一」を作成

○平成18年5月から6月 法蓮寺向拝(玄関)解体・搬出・一時保管を実施

多賀城市南宮慈雲寺に現存する塩竈神社別当法蓮寺の向拝が、本堂の新築に伴い解体消滅の危機にひんしていました。NPO では歴史的建造物保存活用部会を立ち上げて、慈雲寺住職と協議を重ねた結果、檀家の皆さんの理解も得られ、譲渡、解体及び一時保管を塩釜どうしたいかいのメンバーと共に2回に分けて実施しました。



解体中の法蓮寺向拝(玄関)



材料を搬出するメンバー



第2回目の搬出作業に参加した皆さん

○平成 18 年 6 月・11 月 「おいしおがま～食べ歩き～」に参加

歴史的遺産(しるべの石、勝画楼、御釜神社)を生かしたボランティアガイドや無料休息所を開設しました。七曲坂下にある「しるべの石」では、110名の方に、石碑に刻まれた文字からわかる、江戸中期の塩竈の姿をお伝えしました。また、11月には御釜神社で120名の方に塩作りを伝えた神々の足跡をお伝えしました。



「しるべの石」のガイド(七曲坂下)



勝画楼での塩竈の歴史案内



御釜神社のご案内

○平成 18 年 7 月 30 日～11 月 23 日 「勝画楼草刈会&竹垣つくりたい会&建物調査簡易耐震診断・修繕工事&案内板の設置」を実施

志波彦神社・塩竈神社の支援のもと、塩竈どうしたいかいと共同で勝画楼周辺の草刈や竹垣の設置。宮城県建築士会まつしま支部や企業の協力を頂き、勝画楼の懸け造りの補強や建具の修繕工事を実施しました。また、勝画楼や幻の灯台跡について案内板の設置しました。延約130名の会員や市民の方々のご協力を頂き、勝画楼の環境整備を行いました。(公益信託 大成自然・歴史環境基金助成)



勝画楼周辺の草刈隊の実施状況 1



勝画楼周辺の草刈隊の実施状況 2



竹垣設置したいの開催状況



修繕工事前



修繕工事状況



修繕工事完了



案内板設置工事状況



「勝画楼」案内板設置



「幻の灯台」案内板設置

○平成18年11月12日 「日本人で初めて世界一周をした日本人、津太夫・佐平帰郷二百年記念祭」を開催

寛政5年、大シケに遭い漂流した若宮丸の乗組員、幾多の困難を乗り越え鎖国時代の日本に帰国した寒風沢出身の津太夫・左平の偉業を称え、津太夫の生家跡に顕彰碑の設置、供養祭、島内島巡り、記念講演会を開催し、除幕式には80名の方が、記念講演会には遥々、青森や石川県から来塩され約140名の方の皆さんに参加いただきました。開催にあたっては、市民や企業の方からの協賛金を頂き、また石巻千石船の会や石巻若宮丸漂流民の会の皆様のご協力により開催しました。



顕彰碑除幕式（浦戸寒風沢・津太夫生家跡）



記念講演会(マリゲート塩釜)



津太夫・佐平供養祭（寒風沢松林寺）

○平成18年7月から19年2月 「海商の館『亀井邸』再生プロジェクト」を実施

国の都市再生モデル調査にも採択され、塩釜港の繁栄を象徴する総合商社「カメイ」旧社長邸宅の保存活用を中心に、海商の館「亀井邸」再生プロジェクトを実施しました。邸内の見学会やお掃除会、活用方法を探る車座会議、会場設営、まち歩きガイドの養成、市内に残る史跡の案内板の設置、塩竈と京都の繋がりを紹介するフォーラム等、塩竈市や東北学院大学、市内の公益・市民団体・企業と協働・連携して実施しました。



亀井邸の魅力を伝える見学会を開催



愛着を育むお掃除会の開催



活用方策を探る車座会議の開催



亀井邸 会場設営 1



亀井邸 会場設営 2



亀井邸 会場設営 3



まち歩きガイド養成講座



まち歩きガイド養成講座(現場実習)



塩竈神社裏坂に設置した案内板



「みちのくと京都～塩竈を結ぶ遥かなる繋がり～」シンポジウム開催



市民交流事業1
(ゴスペルコンサート)



七曲坂下の案内板



亀井邸整備前



亀井邸整備後



市民交流事業2
(正月2日に実施したプチカフェ)



平成18年9月5日河北新報掲載記事



平成18年9月13日毎日新聞掲載記事



平成19年2月20日河北新報掲載記事

- 平成19年3月31日 「観光案内板除幕式」と「ボランティアガイド初披露」
市内4箇所に設置した観光案内板の除幕式とボランティアガイドの初披露として市内まち歩き会を開催しました。



御釜神社境内地で「案内板除幕式」を開催
(志波彦神社・鹽竈神社様から感謝状が授与されました。)



七曲坂下の「しるべの石」を案内

○平成19年3月31日 市民交流事業「塩竈田楽寄席」を亀井邸をで開催

楽しいシニア塾主催、NPOみなとしほがま共催、東北学院大学落語研究会の皆さんのご協力を得て、全国都市再生モデル調査で試みた「市民交流事業」を継続開催しました。当日は、会場が満杯となる約80名の方々が参加し、塩竈で作られた醤油を用いた玉コンや豆腐、味噌、お菓子を味わいながら楽しいひとときを過ごして頂きました。また、「塩竈の歴史ビデオ」を初放映し、東北で一番長い歴史が語れる塩竈の奥深さを感じて頂きました。



「塩竈田楽寄席」開催状況



塩竈の歴史ビデオを初披露



参加したボランティアスタッフの皆さん

○平成19年6月17日 「まち歩きガイド研修」を実施

志波彦神社・塩竈神社の近藤総務課長、並びに小川塩竈高校教諭を講師にお迎えし、神社境内地の各所や天然記念物である塩竈桜などについて、詳しい解説をいただき、来塩する観光客に塩竈の魅力をお伝えする研修会を開催しました。



近藤総務課長・小川教諭より説明を受けるまち歩きガイド



研修に参加したメンバー

○平成19年5月～ 「観光ボランティアガイド」を開始

9月から毎週土・日曜日の午前10時から12時まで、志波彦神社・塩竈神社の見所を無料でご紹介する観光ボランティアガイドを行っています。また、各団体や旅行会社からの依頼を受けて、随時、市内まち歩きガイドを実施しています。

また、「しおがまさまの月あかり」(10月18日～20日開催・塩釜青年四団体連絡協議会主催)に、併せて実施した「宵茶屋亀井邸」(企画運営・塩竈どうしたいかい)、で約450名の来館者の皆さんに、『海商の館・亀井邸』や塩竈の魅力をご紹介するボランティアガイドを実施しました。



塩竈神社で観光客をご案内



御釜神社境内地にある牛石・藤鞭社
をご案内(5月3日)



「宵茶屋亀井邸」で来館者に亀井邸
の魅力をご紹介(10月20日)

19.2.20

河

北

新

報

平成19年(2007)

みやぎ

地域ニュース

仙台圏

ひとこと

家庭
ハン
松山
保寿
阿音

塩釜の歴史PR「町歩きボランティア」

「ガイドの卵」独り立ち

塩釜に残る歴史を発信する試みとして、昨年十一月から八回講座で開かれた「しほがま町歩きボランティアガイド養成講座」の修了式が十七日、同市宮町の亀井邸であった。六回以上出席した市内や多賀城市の受講者三十九人が「ガイドの卵」として認定された。

この日はまとめとして、塩釜神社周辺や本町める「海商の館・再生ブなどの史跡を巡る現場演習もあった。約三時間にわたる最後の講座を終えた後、六回以上出席した受講者に認定証が手渡された。

築「亀井邸」の活用を進める「海商の館・再生プロジェクト」の一環として企画された。

京都市の塩竈山(えんそうざん)上徳寺住職らを招いて塩釜と京都のつながりを紹介する講演会

養成講座
修了式 39人に認定証授与

三升理事長(右)から認定証を受け取る受講者

受講者が感想を述べ合う場面もあり、「塩釜の塩地名集」や塩釜港発展の歴史、市内の文化財、観光資源などについて学ぶ講座が開かれた。

ボランティアガイドのリーダー役を務めた鈴木和栄さん(モリ)は「塩釜に眠る豊かな歴史を多くの観光客にPRしたい。ガイド役を増やし、活動のすそ野を広げながら、まちの盛り上げを図りたい」と話している。

講座は、市内のNPO法人「NPOみなとしほがま」(三升正直理事長)の主催。総合商社カメイ(仙台市)所有の大正建

港町・塩釜の繁栄象徴

亀井邸保存「海商の館」に

総合商社カメイ(仙台市)創業の地・塩釜市に残る亀井家の邸宅を保存、活用しようと、NPO法人「NPOみなとしほがま」による「海商の館・再生プロジェクト」が開始した。国の都市再生モデル調査事業に選定され、邸宅を市内の歴史や文化を伝える拠点として整備する試みだ。

同市宮町にある亀井邸は一九二四(大正十三)年の建築で、和館と洋館が併設されている。塩釜神社東南の高台にあり、社長宅として、七月に名誉市民となったカメイの亀井文蔵会長(八三)も過ごした。五年ほど前から空き家になってい

る。建物の老朽化が進んだため、カメイ側は三年前、取り壊しの方針を明らかにしたが、塩釜市が「市

NPOが整備・活用 文化伝える拠点目指す



歴史文化を伝える施設として、整備事業がスタートした亀井邸

内の貴重な歴史財産として残したい」と要請。こ

介する歴史サインのワークショップや、まち歩きガイド養成の中心施設として生かす方針だ。

とし四月、市はカメイと賃貸契約を結び、建物の管理を引き継いだ。

事業に対する国からの助成額は約六百万円。とりあえず屋根や水回りなどの修繕、敷地の刈り払いに取り組み予定

歴史遺産の発掘に取り組むNPOみなとしほがまが、斎藤善之・東北学院大教授を通じて千葉大に

事務局は「港の繁栄と塩釜商人の暮らしを象徴する価値ある建物。建築関係者や市民ボランティア

建物調査を依頼。シンポジウムなどを開催し、位置付け、周辺に残る灯台ながら整備を進めた台の礎石、石碑などを紹介」と話している。

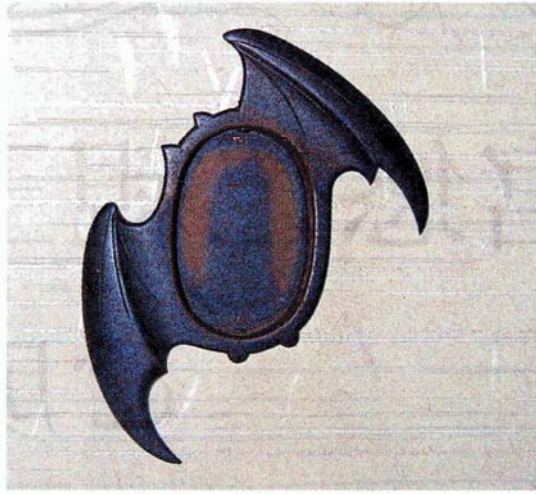
戦前の塩釜商人の栄華伝える代表的建築「亀井邸」

9/13日
「海運のまち」のシンボルに

塩釜市宮町に大正末期に建てられたカメイ創業家の邸宅「亀井邸」が、保存・活用に向けて動き出した。戦前の塩釜商人の栄華を伝える代表的な建築を「海運のまち」のシンボルにしようと、土地・建物を所有する亀井文蔵氏とカメイから市が借り受けた。活用方法を検討しているNPOは17日、見学会を兼ねた市民参加のお掃除会を開く。

【小平百恵】

亀井邸は、塩釜で創業の邸宅として1924
した亀井商店(現カメイ) (大正13)年に建築、和館



こうもりをかたどったふすまの取手

洋館など5棟からなる木造邸宅。亀井家が使わなくなった後も、約5年前まで人が住んでいた。04年に取り壊しの話が持ち上がり、市とNPOが専門家に調査を依頼、保存の道を探ってきた。

和洋併置式と呼ばれる、明治期の大邸宅で用いられた様式の簡易版。和館の天井、洋館のアルミ

ポーを意欲した外壁の模様など、質の高い材料で凝ったデザインを採用。関係の深い旧日本石油の社章だったこうもりをふすまの取手にかたどるなど興味深い細工が施されている。専門家は近代塩釜の繁栄を象徴していると評価した。

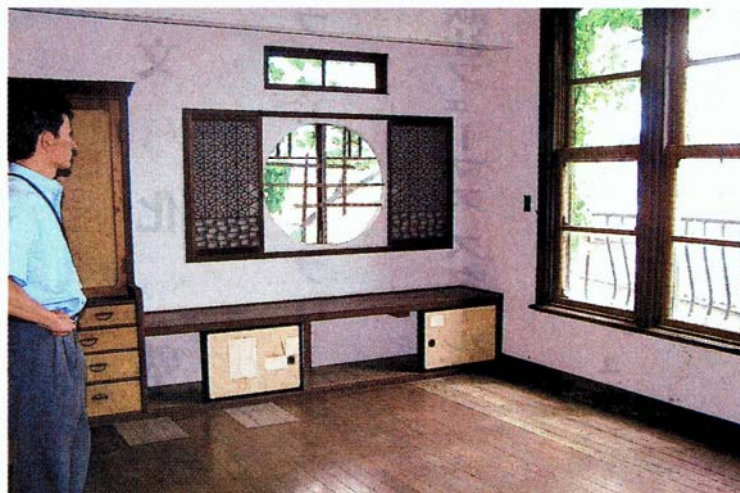
市は保存を前提に交渉し、今年度から、土地建物の固定資産税と同額で賃貸契約を結んだ。条件

創業家から市が借り受け、保存・活用へ

が整えば来年度から公開する方針。まちづくりに取り組むNPO「みなとしほがま」(三升正直理事長)が「文化施設」などとして活用する方策を検討。塩釜商人に関する展示やミニギャラリーにする案がある。国の都市再生モデル事業に選ばれ、調査に対し600万円が助成される。

亀井邸は塩釜神社裏坂中腹にあり、市内を一望できる。まず、お掃除会を兼ねた見学会などでまちのお宝を広く知ってもらい、活用策などを一緒に考えてもらう。NPOのメンバー、斎藤善之東北学院大教授(商業流通史)は「亀井邸は外来文化をうまく取り入れた港

町のバイタリティーがあるの生きた歴史をたどる観ふれる唯一無二の建築だ光資源。多くの市民を巻き込んで有効な活用をしていきたい」と話している。塩釜商人が活躍したところ



亀井邸の洋館の客間。窓も凝ったデザインで和洋折衷が随所にみられる

17日 見学会兼ねてお掃除会